

都市再生整備計画 事後評価シート

掛川駅周辺地区

令和8年3月

静岡県 掛川市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	静岡県		市町村名	掛川市		地区名	掛川駅周辺地区			面積	198ha			
交付期間	令和2年度～令和6年度		事後評価実施時期	令和7年度		交付対象事業費	153百万円		国費率	0.499				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名											
		提案事業	【高質空間形成施設】点字ブロック化、ほのぼのバス(エレベータ)整備 【事業活用調査】事業効果分析調査											
	当初計画から削除した事業	基幹事業	【高質空間形成施設】ほのぼのバス(エレベータ)整備				R6までの設置完了が困難となったため事業削除(第3回変更で削除)		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
		提案事業	—				—		—					
	新たに追加した事業	基幹事業	【高質空間形成施設】掛川駅広場バリアフリー化				点字ブロック化と連携して誰もが安全で安心して移動できる歩行空間を創出するために追加(第2回変更で追加)		影響なし					
		提案事業	【高質空間形成施設】ほのぼのバス(段差解消機)整備				事業削除したエレベータの代替施設として事業追加(第3回変更で追加)		影響なし					
	交付期間の変更	当初	令和2年度～令和6年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		—							
変更	変更なし													
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
			基準年度		目標年度	モニタリング	評価値							
	指標1	中心市街地の歩行者通行量	人／年	5,938	H30	6,300	R06		5,632	△	あり なし●	計画策定時に想定しなかったコロナ禍や想定以上の猛暑など外出を控える傾向が強くなった影響により、従前値および目標値を下回る結果となった。しかし、コロナ禍により落ち込んだ令和3年度から増加傾向にあることを踏まえると、一定の効果は認められる。	R12年内	
	指標2	まちなか交流人口	人／年	181,462	H30	200,062	R06		182,704	△	あり なし●	計画策定時に想定しなかったコロナ禍や想定以上の猛暑など外出を控える傾向が強くなった影響により、目標値に達しなかった。しかし、コロナ禍以前であるH30の従前値よりも1,242人上回っており、一定の効果は認められる。	R12年内	
	指標3	駅周辺地区の評価「街の歩きやすさ」	点	0.70	H25	1.10	R06		0.72	△	あり なし●	計画策定時に想定しなかったコロナ禍や想定以上の猛暑など外出を控える傾向が強くなった影響により、目標値を下回る結果となった。しかし、「歩きやすくない」という否定的な評価割合が減少していることを踏まえると、一定の効果は認められる。	R12年内	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
			基準年度		目標年度	モニタリング	評価値							
	その他の数値指標1	買物等の便利さ	点	-0.80	H25				-0.14		5段階評価の回答の平均値が増加していることから、点字ブロック・スロープ・段差解消機などの整備により、誰もが安全で安心して移動できる歩行空間が創出され、間接的に買物等の便利さが向上したと評価できる。	—		
	その他の数値指標2	歩行困難者(視覚障がい者、車いす利用者など)に よっての移動しやすさ	%	0.0	R02				57.5		過半数が「移動しやすくなった」と評価していることから、点字ブロック・スロープ・段差解消機などの整備により、歩行を阻害する要因が取り除かれ、特に歩行困難者(視覚障がい者、車いす利用者など)に よっての移動しやすさが向上したと評価できる。	—		
その他の数値指標3														
4)定性的な効果発現状況	・点字ブロック・スロープ・段差解消機などの整備により、中心市街地全体の回遊性が向上した。 ・点字ブロック・スロープ・段差解消機などの整備により、歩行者がより安心・安全に通行できるようになった。													
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング		なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた				—			
							都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							
							都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	官民連携による取組		掛川市街なか空き店舗活用事業				都市再生整備計画に記載し、実施できた				●		街なか空き店舗活用事業は令和6年度で終了したが、令和7年度以降は空き家活用事業を実施予定。	
							都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							
							都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	持続的なまちづくり体制の構築		かけがわ けつら市、掛川商工まつり、掛川納涼まつり				都市再生整備計画に記載し、実施できた				●		次年度以降の実施体制を検討する。	
							都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							
							都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
		なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた				—				
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した								
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								

様式2-2 地区の概要

掛川駅周辺地区(静岡県掛川市) 都市再生整備計画の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
【大目標】 掛川城下と融合し、誰もが安心して楽しめるにぎわいのある中心市街地の創出 【小目標】 ① 掛川駅と掛川城下を結ぶ歩行ネットワーク ② 誰もが安全で安心して移動できる歩行空間の創出 ③ 中心市街地におけるにぎわいの創出		中心市街地の歩行者通行量	単位:人/年	5,938	H30	6,300	R06	5,632	R06
		まちなか交流人口	単位:人/年	181,462	H30	200,062	R06	182,704	R06
		駅周辺地区の評価「街の歩きやすさ」	単位:点	0.70	H25	1.10	R06	0.72	R06

ほのぼのバス(段差解消機)整備

整備前

整備後

点字ブロック化

整備前

整備後

駅前広場バリアフリー化

整備前

整備後

■基幹事業:高質空間形成施設
(歩行支援施設、障害者誘導施設)
点字ブロック化

□提案事業:事業効果分析調査
(事業活用調査)
事後評価 1式

■基幹事業:高質空間形成施設
(歩行支援施設、障害者誘導施設)
ほのぼのバス(段差解消機)整備

■基幹事業:高質空間形成施設
(歩行支援施設、障害者誘導施設)
駅前広場バリアフリー化

凡 例

都市再生整備計画区域

基幹事業

提案事業

まちの課題の変化

●誰もが安全で安心して地区内を移動できるようにすることが求められる。
(達成)点字ブロック・スロープ・段差解消機などの整備により、誰もがより安心・安全に移動できるようになった。
(課題)歩道幅員の拡幅、舗装の改修や美化、滞留空間の整備、自転車レーンの設置など、より安心・安全に移動できる道路環境整備が求められる。
●JR掛川駅と掛川城下地区のネットワークを強化することが求められる。
(達成)点字ブロック・スロープ・段差解消機などの整備により、特に歩行困難者の円滑な移動が可能となり、中心市街地全体の回遊性が向上した。
(課題)JR掛川駅と掛川城下地区を繋ぐ主要ネットワークである県道掛川駅停車場線や市道緑橋通り線などにおいて、歩行者通行量の増加に資する魅力的でにぎわいのある歩道空間整備が求められる。
●JR掛川駅の北口と南口の移動の円滑化を図ることが求められる。
(達成)駅前広場バリアフリー化や駅北口と南口の連絡路であるほのぼのバスにおける段差解消機の整備により、誰もが円滑に移動できるようになった。
(課題)駅前広場、駅南広場、市道掛川駅ほのぼの通り線などにおける照明設備・ポンプの更新など、安心・安全に移動できる駅周辺環境を持続的に維持することが求められる。
【新たな課題】アンケート結果より、「星の街の活気」の評価が著しく低く、中心市街地における大きな課題であることが示唆された。今後のまちづくりにあたっては、特に「星の街の活気」の向上に資するまちなかウォーカブル推進事業を推進することが重要である。

今後のまちづくりの方策
(改善策を含む)

■効果を持続させるために行う方策
・点字ブロックやスロープの連続性向上:引き続き、都市の拠点や主要歩道における点字ブロックやスロープ整備を進め、安心・安全な歩行ネットワークの構築に努めるとともに、まちなかウォーカブル推進事業との連携により、移動しやすさの効果の最大化を図る。
・歩きたくなる歩道空間の創出:利用者・周辺住民等からの意見を取り入れた道路意匠を工夫する等、誰もが歩きたくなるような歩行者空間の整備を行う。
■改善策
・星の街の活気の向上:歩道幅員の拡幅、舗装の改修や美化、滞留空間の整備など、星の街の活気の向上に資する魅力的な歩道空間整備に努めるとともに、活性化に向けた取り組みにつなげる。
・安心・安全に移動できる駅周辺環境の維持:駅前広場、駅南広場、市道掛川駅ほのぼの通り線などにおける照明設備・ポンプの更新など、安心・安全に移動できる駅周辺環境の維持につなげる。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2－① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2－② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2－参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3－① モニタリングの実施状況
- 添付様式3－② 官民連携による取組みの実施状況
- 添付様式3－③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4－① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4－② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4－③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5－① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5－② まちの課題の変化
- 添付様式5－③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5－参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5－④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1ー① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●	－	－	－
B. 目標を定量化する指標		●	－	－	－
C. 目標値		●	－	－	－
D. その他()		●	－	－	－

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
高質空間形成施設	点字ブロック化	50	L=1,200m	42	L=1,500m	まちなかウォークアブル推進事業と合わせた整備ルートの変更、一部既存点字ブロックの再利用による事業費の減額	影響なし	●	
高質空間形成施設	掛川駅広場バリアフリー化	—	—	50	A=7,000㎡	点字ブロック化と連携して誰もが安全で安心して移動できる歩行空間を創出するために追加(第2回変更で追加)	影響なし	●	
高質空間形成施設	ほのぼのパス(エレベータ)整備	256	1基	—	—	R6までの設置完了が困難となったため事業削除(第3回変更で削除)	影響なし	—	—
高質空間形成施設	ほのぼのパス(段差解消機)整備	—	—	55	1基	事業削除したエレベータの代替施設として事業追加(第3回変更で追加)	影響なし	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業									
事業活用調査	事業効果分析調査	5	事後評価	6	事後評価	人件費等の増加による事業費の増額	影響なし	●	
まちづくり 活動推進事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
															あり	なし
指標1	中心市街地の歩行者通 行量	人／年	中心市街地内7地点における歩 行者数(平日)の合計 ※7地点:緑橋、ねむの木ギャラ リー前、中町伊藤菓子舗前、連 雀みらいふ前、駅通りTOM BILD2前、駅通り138ストア前、 駅南北自由通路	-	-	5,938	H30	6,300	R06	モニタリング			モニタリング			●
										事後評価	確定	●	5,632	事後評価	△	
指標2	まちなか交流人口	人／年	3施設における年間利用者数の 合計値 ※3施設:掛川城天守閣・御殿、 二の丸美術館、ステンドグラス 美術館	-	-	181,462	H30	200,062	R06	モニタリング			モニタリング			●
										事後評価	確定	●	182,704	事後評価	△	
指標3	駅周辺地区の評価「街の 歩きやすさ」	点	市民アンケート調査における 「中心市街地は歩きやすいと思 いますか(5段階評価)」の回答の 平均値	-	-	0.70	H25	1.10	R06	モニタリング			モニタリング			●
										事後評価	確定	●	0.72	事後評価	△	

指 標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	計画策定時に想定しえなかったコロナ禍や想定以上の猛暑など外出を控える傾向が強くなった影響により、従前値および目標値を下回る結果となった。しかし、コロナ禍により落ち込んだ令和3年度から増加しており、改善傾向が認められるため「△」とした。	-
指標2	計画策定時に想定しえなかったコロナ禍や想定以上の猛暑など外出を控える傾向が強くなった影響により、目標値に達しなかった。しかし、コロナ禍以前であるH30の従前値よりも増加したため「△」とした。	-
指標3	点字ブロック・スロープ・段差解消機などバリアフリーに資する整備が多く、歩きやすさの対象が限定的であり、目標値を下回る結果となった。しかし、アンケート結果の内訳として「歩きやすくない」という否定的な評価割合が減少しており、歩行を阻害する要因の排除により歩行環境が改善したと評価できるため「△」とした。	市民アンケート調査における設問の対象者(誰にとつての歩きやすさか)を明示し、具体的に事業の効果を測る必要がある。

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○:評価値が目標値を上回った場合

△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2ー② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
		単位			基準 年度		基準 年度					
その他の 数値指標1	買物等の便利さ	点	市民アンケート調査における 「中心市街地は、買物等の便利 さがあると思いますか(5段階評 価)」の回答の平均値	-		-0.80	H25	モニタリング			誰もが安全で安心して移動でき る歩行空間の創出による、買物 等の便利さの向上度を測るた め。	指標1および2を補完して、街 のにぎわいの向上を説明す る。
								事後評価	確定 見込み	● -0.14		
その他の 数値指標2	歩行困難者(視覚障がい 者、車いす利用者など)に よる移動しやすさ	%	市民アンケート調査における設 問「中心市街地は、整備前(R2 年)に比べて歩行困難者(視覚 障がい者、車いす利用者など) にとって移動しやすい街になっ たと思いますか」に対する「非常 に移動しやすくなった」または 「やや移動しやすくなった」の割 合 ※従前値は0とする。	-		0.0	R02	モニタリング			点字ブロック・スロープ・段差解 消機などの整備による直接的 な効果を測るため。	指標3を補完して、街の歩き やすさの向上を説明する。
								事後評価	確定 見込み	● 57.5		
その他の 数値指標3								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2ー参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・点字ブロック・スロープ・段差解消機などの整備により、中心市街地全体の回遊性が向上した。 ・点字ブロック・スロープ・段差解消機などの整備により、歩行者がより安心・安全に通行できるようになった。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	—	—

添付様式3-② 官民連携による取組の実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
掛川市街なか空き店舗活用事業	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した ● 予定したが実施できなかった (理由)	【実施頻度】通年 【実施時期】令和4年4月1日～令和7年3月31日 【実施結果】出店数8店舗、集客数5,684人	街なか空き店舗活用事業は令和6年度で終了したが、令和7年度以降は空き家活用事業を実施予定。
かけがわ けつトラ市	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した ● 予定したが実施できなかった (理由)	【実施頻度】年4回 【実施時期】令和3年度～令和6年度 【実施結果】出店数824店舗、利用者数55,600人 ※4年間合計	次年度以降の実施体制を検討する。
掛川商工まつり	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した ● 予定したが実施できなかった (理由)	【実施頻度】年1回 【実施時期】令和4年度～令和6年度 【実施結果】来訪者数35,000人 ※3年間合計	次年度以降の実施体制を検討する。
掛川納涼まつり	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した ● 予定したが実施できなかった (理由)	【実施頻度】年2回 【実施時期】令和5年度～令和6年度 【実施結果】来訪者数30,000人 ※2年間合計	次年度以降の実施体制を検討する。

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
なし	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	—	—	—

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
掛川駅周辺地区 都市再生整備計画事後評価に伴う庁内検討会	都市政策課 維持管理課 土木防災課 文化・スポーツ振興課	令和7年9月19日(金)	掛川市都市建設部都市政策課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		その他の数値指標1		その他の数値指標2			
指 標 名		買物等の利便さ		歩行困難者(視覚障がい者、車いす利用者など)にとっての移動しやすさ			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	【高質空間形成施設】点字ブロック化	○	5段階評価の回答の平均値が増加していることから、点字ブロック・スロープ・段差解消機などの整備により、誰もが安全で安心して移動できる歩行空間が創出され、間接的に買物等の利便さが向上したと評価できる。	◎	過半数が「移動しやすくなった」と評価していることから、点字ブロック・スロープ・段差解消機などの整備により、歩行を阻害する要因が取り除かれ、特に歩行困難者(視覚障がい者、車いす利用者など)にとっての移動しやすさが向上したと評価できる。		
	【高質空間形成施設】掛川駅広場バリアフリー化	○		◎			
	【高質空間形成施設】ほのぼのバス(段差解消機)整備	○		◎			
提案事業	【事業活用調査】事業効果分析調査	—		—			
関連事業							

※指標改善への貢献度
◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
—：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	買物等の利便さを向上させる観点も踏まえた事業を推進し、中心市街地におけるにぎわいの創出につなげる。	引き続き、歩行困難者(視覚障がい者、車いす利用者など)の歩行環境を改善させる事業を推進し、誰もが安全で安心して移動できる歩行空間の創出につなげる。		
-------	---	---	--	--

添付様式4－③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標3					
指 標 名		中心市街地の歩行者通行量			まちなか交流人口			駅周辺地区の評価「街の歩きやすさ」					
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	【高質空間形成施設】点字ブロック化	△	計画策定時に想定しえなかったコロナ禍や想定以上の猛暑など外出を抑える傾向が強くなった影響により、従前値および目標値を下回る結果となった。しかし、コロナ禍により落ち込んだ令和3年度から増加傾向にあることを踏まえると、一定の効果は認められる。	Ⅳ	△	計画策定時に想定しえなかったコロナ禍や想定以上の猛暑など外出を抑える傾向が強くなった影響により、目標値に達しなかった。しかし、コロナ禍以前であるH30の従前値よりも1,242人上回っており、一定の効果は認められる。	Ⅳ	△	計画策定時に想定しえなかったコロナ禍や想定以上の猛暑など外出を抑える傾向が強くなった影響により、目標値を下回る結果となった。しかし、「歩きやすくない」という否定的な評価割合が減少していることを踏まえると、一定の効果は認められる。	Ⅳ			
	【高質空間形成施設】掛川駅広場バリアフリー化	△			△			△					
	【高質空間形成施設】ほのぼのバス(段差解消機)整備	△			△			△					
提案事業	【事業活用調査】事業効果分析調査	－			－			－					
関連事業													

※目標未達成への影響度
××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
△：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度効果をあげたと思われる。
－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	次年度以降のまちなかウォーカブル推進事業等により、掛川駅と掛川城下を結ぶ歩行ネットワーク形成及びにぎわいの創出を推進し、中心市街地の歩行者通行量の増加を図る。 また、事業のPRを積極的に行い、整備した施設の認知度向上に努める。	掛川城公園や関連施設の利活用、イベント内容の情報発信など、まちなか交流人口の増加に資する取り組みを推進する。	次年度以降のまちなかウォーカブル推進事業において多くの歩行者にとって歩きやすい道路環境の整備(歩道拡幅、舗装改修等)を進めるなど、引き続き、街の歩きやすさに資する取り組みを推進する。
------------------	--	--	---

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
掛川駅周辺地区 都市再生整備計画事後評価に伴う庁内検討会	都市政策課 維持管理課 土木防災課 文化・スポーツ振興課	令和7年9月19日(金)	掛川市都市建設部都市政策課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
誰もが安全で安心して地区内 を移動できるようにすることが 求められる。	点字ブロック・スロープ・段差解消機などの整備により、 誰もがより安心・安全に移動できるようになった。	歩道幅員の拡幅、舗装の改修や美化、滞留空間の整備、自転車 レーンの設置など、より安心・安全に移動できる道路環境整備 が求められる。	アンケート結果より、「屋の街の活気」の評価が著しく低く、中 心市街地における大きな課題であることが示唆された。今後 のまちづくりにあたっては、特に「屋の街の活気」の向上に資 するまちなかウォークアブル推進事業を推進することが重要であ る。
JR掛川駅と掛川城下地区の ネットワークを強化することが 求められる。	点字ブロック・スロープ・段差解消機などの整備により、 特に歩行困難者の円滑な移動が可能となり、中心市街 地全体の回遊性が向上した。	JR掛川駅と掛川城下地区を繋ぐ主要ネットワークである県道掛 川駅停車場線や市道緑橋通り線などにおいて、歩行者通行量の 増加に資する魅力的でにぎわいのある歩道空間整備が求められ る。	
JR掛川駅の北口と南口の移 動の円滑化を図ることが求めら れる。	駅前広場バリアフリー化や駅北口と南口の連絡路であ るほのぼのバスにおける段差解消機の整備により、誰も が円滑に移動できるようになった。	駅前広場、駅南広場、市道掛川駅ほのぼの通り線などにおける 照明設備・ポンプの更新など、安心・安全に移動できる駅周辺環 境を持続的に維持することが求められる。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方
策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を
添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5ー③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	点字ブロックやスロープの連続性向上	引き続き、都市の拠点や主要歩道における点字ブロックやスロープ整備を進め、安心・安全な歩行ネットワークの構築に努めるとともに、まちなかウォーカブル推進事業との連携により、移動しやすさの効果の最大化を図る。	・点字ブロック整備 ・スロープ整備
	歩きたくなる歩道空間の創出	利用者・周辺住民等からの意見を取り入れた道路意匠を工夫する等、誰もが歩きたくなるような歩行者空間の整備を行う。	・まちなかウォーカブル推進事業

B欄 改 善 策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	昼の街の活気の向上	歩道幅員の拡幅、舗装の改修や美装化、滞留空間の整備など、昼の街の活気の向上に資する魅力的な歩道空間整備に努めるとともに、活性化に向けた取り組みにつなげる。	・まちなかウォーカブル推進事業
	安心・安全に移動できる駅周辺環境の維持	駅前広場、駅南広場、市道掛川駅ほのぼの通り線などにおける照明設備・ポンプの更新など、安心・安全に移動できる駅周辺環境の維持につなげる。	・まちなかウォーカブル推進事業

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5ー③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。（チェック欄）

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題（都市再生整備計画）を再確認した。
●	事業の実施過程の評価（添付様式3）を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用（添付様式4ー②）を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針（添付様式4ー③）を再確認した。
●	残された課題や新たな課題（添付様式5ー②）を再確認した。

添付様式5ー参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

・事業のPRや観光マップの配布などのソフト対策を併せて実施し、相乗効果による一層の効果発現を図る。

添付様式5ー④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2ー①、2ー②に記載した全ての指標について記入して下さい。

・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2ー①、2ー②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指 標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画					
			年度		年度							予定時期	計測方法	その他特記事項			
指標1	中心市街地の歩行者通行量	人／年	5,938	H30	6,300	R06	確定 見込み	● ●	5,632	△	あり なし	● ●	→	R12年内	毎年実施する歩行者通行量調査により達成状況を確認する。		
指標2	まちなか交流人口	人／年	181,462	H30	200,062	R06	確定 見込み	● ●	182,704	△	あり なし	● ●	→	R12年内	毎年実施する施設利用者数の集計結果により達成状況を確認する。		
指標3	駅周辺地区の評価「街の歩きやすさ」	点	0.70	H25	1.10	R06	確定 見込み	● ●	0.72	△	あり なし	● ●	→	R12年内	次年度以降のまちなかウォークアブル推進事業が完了した際に、改めてアンケートを実施し、達成状況を確認する。		
その他の数値指標1	買物等の便利さ	点	-0.80	H25			確定 見込み	● ●	-0.14					→	—	—	
その他の数値指標2	歩行困難者（視覚障がい者、車いす利用者など）にとっての移動しやすさ	%	0.0	R02			確定 見込み	● ●	57.5					→	—	—	
その他の数値指標3							確定 見込み							→			

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標・成果の達成	うまくいった点	—	次期計画等においては、事業進捗に応じて目標値を適切な数値に再設定するなど、計画内の整合性を確保する必要がある。
	うまくいかなかった点	計画策定時に想定しえなかったコロナ禍や想定以上の猛暑など外出を控える傾向が強くなった影響により目標値に達しなかった。	
数値目標と目標・事業との整合性等	うまくいった点	—	コロナ禍以降の外出に対する意識の変化や猛暑などの近年の社会情勢・気候変動等を十分考慮した数値目標を設定する。
	うまくいかなかった点	計画策定時に想定しえなかったコロナ禍や想定以上の猛暑など外出を控える傾向が強くなった影響により目標値に達しなかった。	
住民参加・情報公開	うまくいった点	住民参加型のイベントを実施し、中心市街地におけるにぎわいの創出に寄与した。	引き続き、次年度以降の実施体制を検討する。
	うまくいかなかった点	—	
PDCAによる事業・評価の進め方	うまくいった点	—	次期計画等においては、適切な時期にモニタリングを実施し、事業の進捗状況の確認および必要に応じた事業の見直し(計画変更)等を行う。
	うまくいかなかった点	コロナ禍という不測の事態においてモニタリングが実施できず、社会情勢の変化を事業進捗に反映できなかった。	
その他	うまくいった点	—	—
	うまくいかなかった点	—	

添付様式6—参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

掛川城・駅周辺地区都市再生整備計画

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに記載	令和7年10月1日(水)～ 令和7年10月15日(水)	令和7年10月1日(水)～ 令和7年10月15日(水)	担当課への電子メール、郵送	掛川市都市建設部 都市政策課
広報掲載・回覧・個別配布	—	—	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	主管窓口(都市政策課)での閲覧	令和7年10月1日(水)～ 令和7年10月15日(水)	令和7年10月1日(水)～ 令和7年10月15日(水)		
住民の意見					

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員					
その他の委員					

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	
	成果の評価	
	実施過程の評価	
	効果発現要因の整理	
	事後評価原案の公表の妥当性	
	その他	
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	
	フォローアップ	
	その他	
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	
その他		

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	
--------	--

都市再生整備計画(第4回^{ダイ}変更^{カイ}ヘンコウ)

かけがわえきしゅうへん
掛川駅周辺地区

しずおか かけがわ し
静岡県 掛川市

令和6年6月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	□
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

目標及び計画期間

様式(1)－②

都道府県名	静岡県	市町村名	かけがわ 掛川市	地区名	かけがわあきしゆうへん 掛川駅周辺地区	面積	198	ha
計画期間	令和	2	年度	～	令和	6	年度	
交付期間	令和	2	年度	～	令和	6	年度	

目標 【大目標】 掛川城下と融合し、誰もが安心して楽しめるにぎわいのある中心市街地の創出 【小目標】 ① 掛川駅と掛川城下を結ぶ歩行ネットワーク ② 誰もが安全で安心して移動できる歩行空間の創出 ③ 中心市街地におけるにぎわいの創出
目標設定の根拠 都市全体の再編方針（都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用を考え、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針） ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。 本地区は、JR掛川駅北口であり、本市の中心市街地が広がる地区である。本地区においては、平成10年度から、「緑の精神回廊」整備を進めてきた。この「緑の精神回廊」は、掛川城公園を中心とした「教育・文化・商業・観光ゾーン」と新市調査や生物循環パビリオンがある「行政・財政・環境ゾーン」の2核と、逆川堤防の水辺コース・逆川回廊を横軸とした2核1モールとして、誰もが安全で快適に利用できるよう、防災と美観を兼ね備えた緑あふれる歩道のネットワークとして、重点的整備を推進してきた。 また、「中心市街地活性化基本計画」において、掛川城公園を中心とした東の核「教育・文化・商業・観光ゾーン」に、「掛川城周辺の歴史文化ゾーンと駅周辺の商業ゾーン」を設定し、中心市街地としての賑わいを目指している。 本地区において、にぎわいの創出を図り、中心市街地の活性化を図ることをねらいとし、JR掛川駅と掛川城下の地区に人の流れを創出するために、ハード面からの対応が必要とされている。
まちづくりの経緯及び現況 掛川市は、静岡県の西部に位置し、東海道新幹線、東海道本線、東名高速道路、新東名高速道路といった広域交通の大動脈が東西に走り、市域中央部には掛川駅及び掛川インターチェンジが設置されており、中東遠都市圏の玄関口として機能している。また、掛川駅には、遠州地方・浜名湖北岸地域を結ぶ天竜浜名湖鉄道が接続しており、沿線住民の日常生活を支える重要な鉄道路線として機能している。このような交通の要衝地であることの優位性を活かし、本市では企業誘致や定住促進に積極的に取り組んできた結果、中東遠都市圏の中核を成す都市として着実な発展を遂げてきた。 さらに、本地区は「掛川市立地適正化計画」において、都市機能誘導区域に設定されるとともに、「掛川市歴史的風致維持向上計画」においても、掛川城下重点区域として設定された。これにより本地区は、掛川地区の都市機能の集積を図りつつ、掛川城下の歴史的風致の維持向上を進めていく。都市機能と歴史文化が融合して集積していく中心市街地として位置づけられたこととなる。 本地区においては、平成22年10月より、けつろ市実行委員会により「街なかストリートけつろ市」（毎月第3土曜日）の開催や、友引ストリートカフェ実行委員会による「友引ストリートカフェ」、あるいは平成31年1～2月に市民主体で実施された活動など、官民協働によるまちづくり活動が展開されているものの、地区人口の減少、少子高齢化等が進行し、賑わいの喪失や空き地や空き店舗の増加が顕著になりつつある。
課題 ① 誰もが安全で安心して地区内を移動できるようにすることが求められる。 ② JR掛川駅と掛川城下地区のネットワークを強化することが求められる。 ③ JR掛川駅の北口と南口の移動の円滑化を図ることが求められる。
将来ビジョン（中長期） ① 掛川市総合計画（2016年～2025年） 将来像「希望が見えるまち・誰もが住みたくなるまち掛川」 ② 掛川市都市計画マスタープラン（目標年度2028年）「東中学校区まちづくり構想」～豊かな自然と城下町文化を活かしながら、安全・安心・にぎわいのある生活と交流を生むまちづくり～を目指し、本区域を「活性化と歴史的まちづくり」の中心市街地と位置づけ。 ③ 掛川市立地適正化計画（2018年～2028年）本地区は、都市機能誘導区域として位置づけ。 ④ 掛川市歴史的風致維持向上計画（2017～2026年）本地区は、「掛川城下にみる歴史的風致」「報徳運動にみる歴史的風致」の二つの歴史的風致が位置づけられるとともに、掛川城下重点区域として設定。 ⑤ 掛川市自治基本条例 ～「希望が見えるまち・誰もが住みたくなるまち掛川」の実現を目指し、本区域をはじめ全市域において、市民、市議会、行政による協働のまちづくりを推進

都市構造再編集集中支援事業の計画 ※都市構造再編集集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。							
都市機能配置の考え方 「中心市街地活性化基本計画」において、掛川城公園を中心とした東の核「教育・文化・商業・観光ゾーン」に、「掛川城周辺の歴史文化ゾーンと駅周辺の商業ゾーン」を設定し、中心市街地としての賑わいを目指している。							
都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方 本地区において、にぎわいの創出を図り、中心市街地の活性化を図ることをねらいとし、JR掛川駅と掛川城下の地区に人の流れを創出するために、ハード面からの対応が必要とされている。							
都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等							

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
中心市街地の歩行者通行量	人／年	中心市街地の歩行者通行量	中心市街地の歩行者通行量により、交流促進の状態を把握する。	5,938	H30	6,300	R6
まちなか交流人口	人／年	掛川城周辺の歴史・文化施設利用者数	まちなか交流人口により、交流促進の状態を把握する。	181,462	H30	200,062	R6
駅周辺地区の評価「街の歩きやすさ」	点	街の評価(5段階評価0～2)の平均点	掛川駅や掛川駅周辺の整備が、街のイメージアップにつながる。	0.7	H25	1.1	R6

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
整備方針1 安全な移動ができる歩行環境の向上 ・誰もが安全に移動できるよう、歩道等の歩行空間の改善を図るとともに、JR掛川駅の南北間の移動の円滑化を図る。		○高質空間形成施設 ・点字ブロック整備事業 ・掛川駅広場バリアフリー化 ・ほのぼのバス(段差解消機)整備
	整備方針2 回遊性を促す歩行ネットワークの強化 ・中心市街地の回遊性の強化を図るために、JR掛川駅から掛川城下地区までの歩行者ネットワークの強化を図る。	○高質空間形成施設 ・点字ブロック整備事業 ・掛川駅広場バリアフリー化 ・ほのぼのバス(段差解消機)整備
その他		

様式(1)-④-1

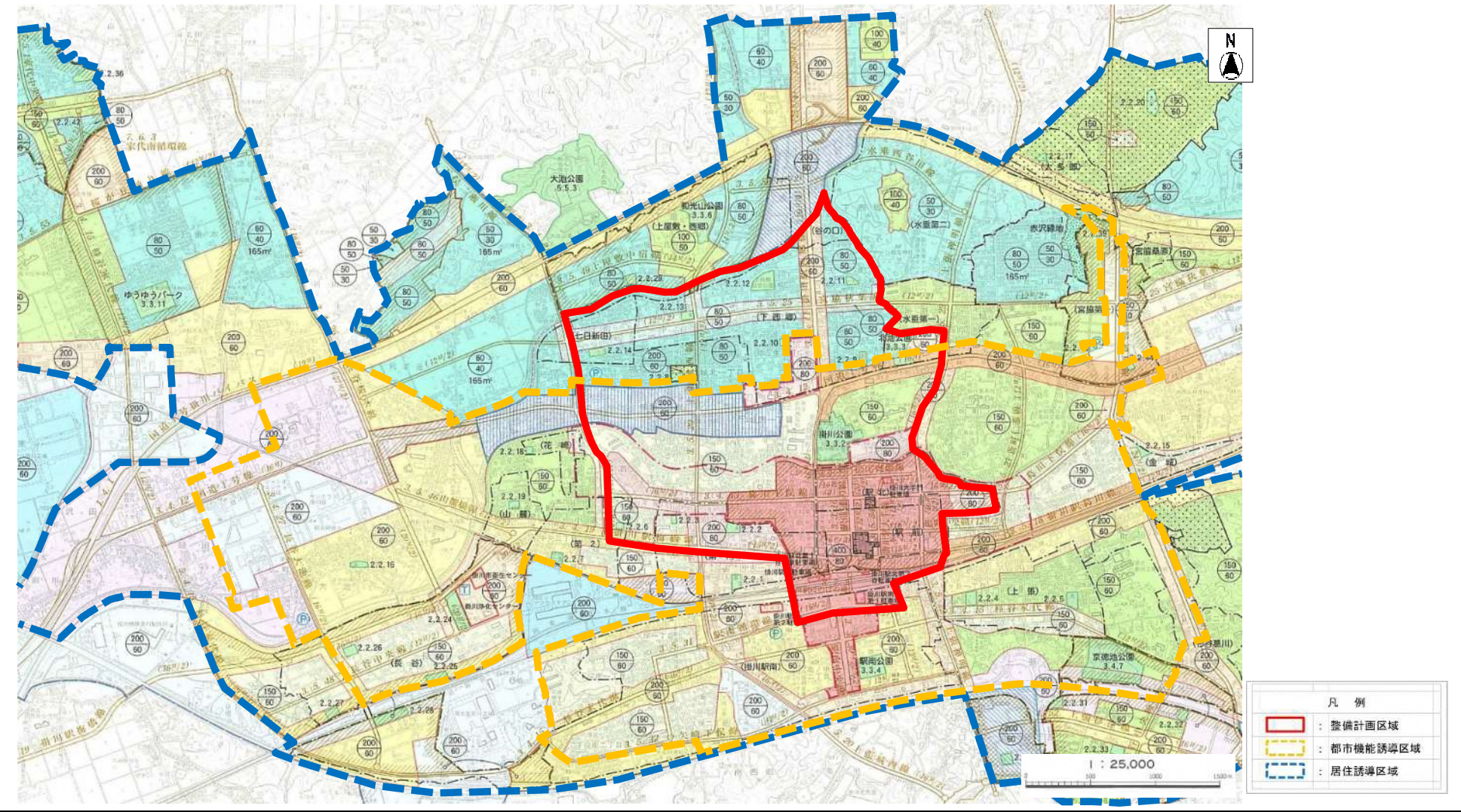
(金額の単位は百万円)

統合したB/Cを記入してください

6...B

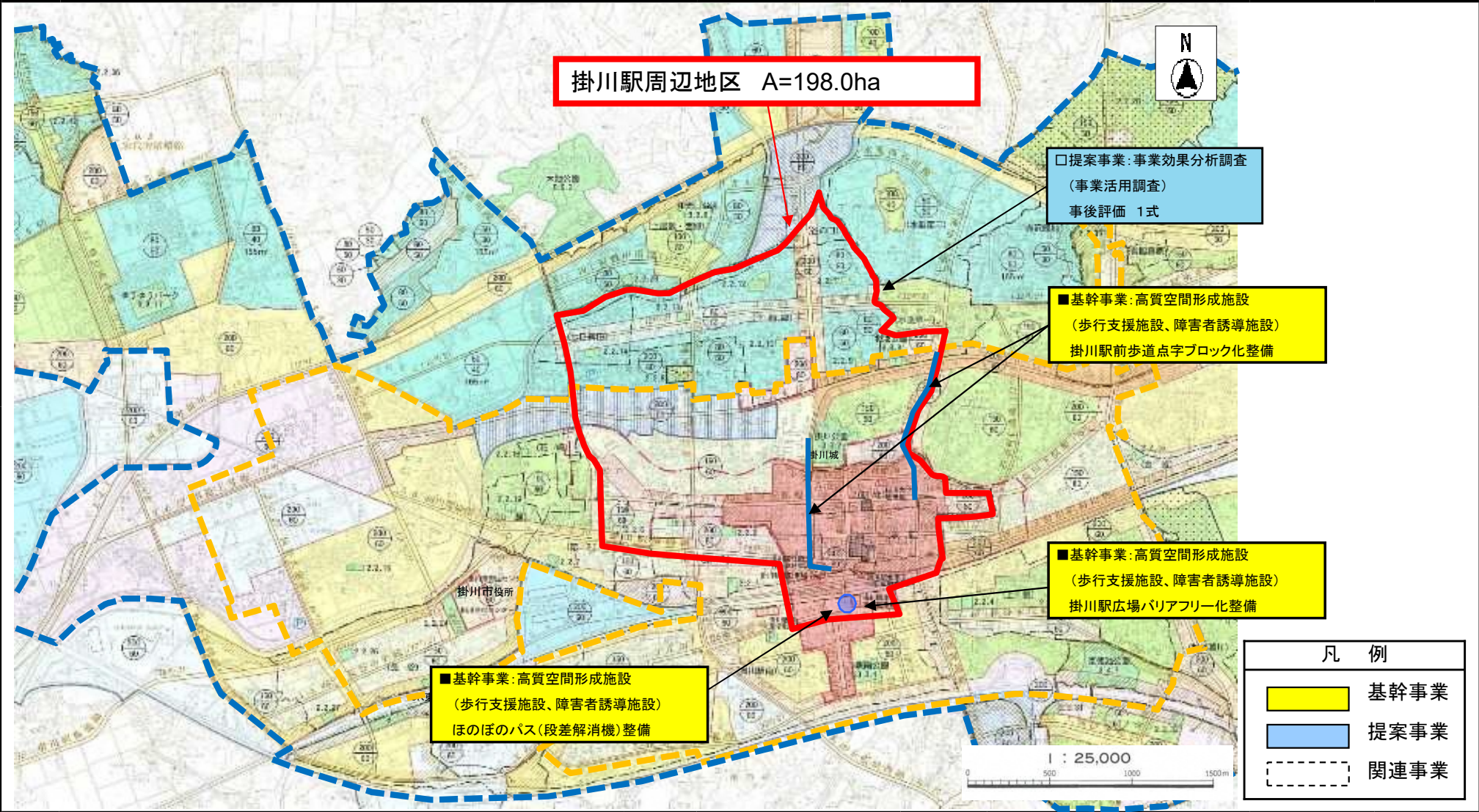
掛川駅周辺地区(静岡県掛川市)	面積	198 ha	区域	北門、天王町、弥生町、柳町、中宿、谷の口町、城北1丁目・2丁目、城西1丁目・2丁目、肴町、紺屋町、駅前、中町、城下、連雀の全部と七日町、二瀬川、中央1丁目・2丁目、仁藤町、塩町、掛川、十九首、下俣、仁藤、南西郷、下西郷、上西郷、下垂木の一部
-----------------	----	--------	----	--

※ 計画区域が分かるような図面を添付すること。



カケガワ エキシュウヘン カケガワ
掛川駅周辺地区(静岡県掛川市) 整備方針概要図(都市構造再編集集中支援事業)

目標	にぎわいのある中心市街地の創出と掛川駅周辺の安心安全なまちづくり	代表的な指標	中心市街地の歩行者数 (人/年)	5,938 (H30年度) → 6,300 (R6年度)
			まちなか交流人口 (人/年)	181,462 (H30年度) → 200,062 (R6年度)
			駅周辺地区の評価「街の歩きや」(点)	0.7 (H25年度) → 1.1 (R6年度)

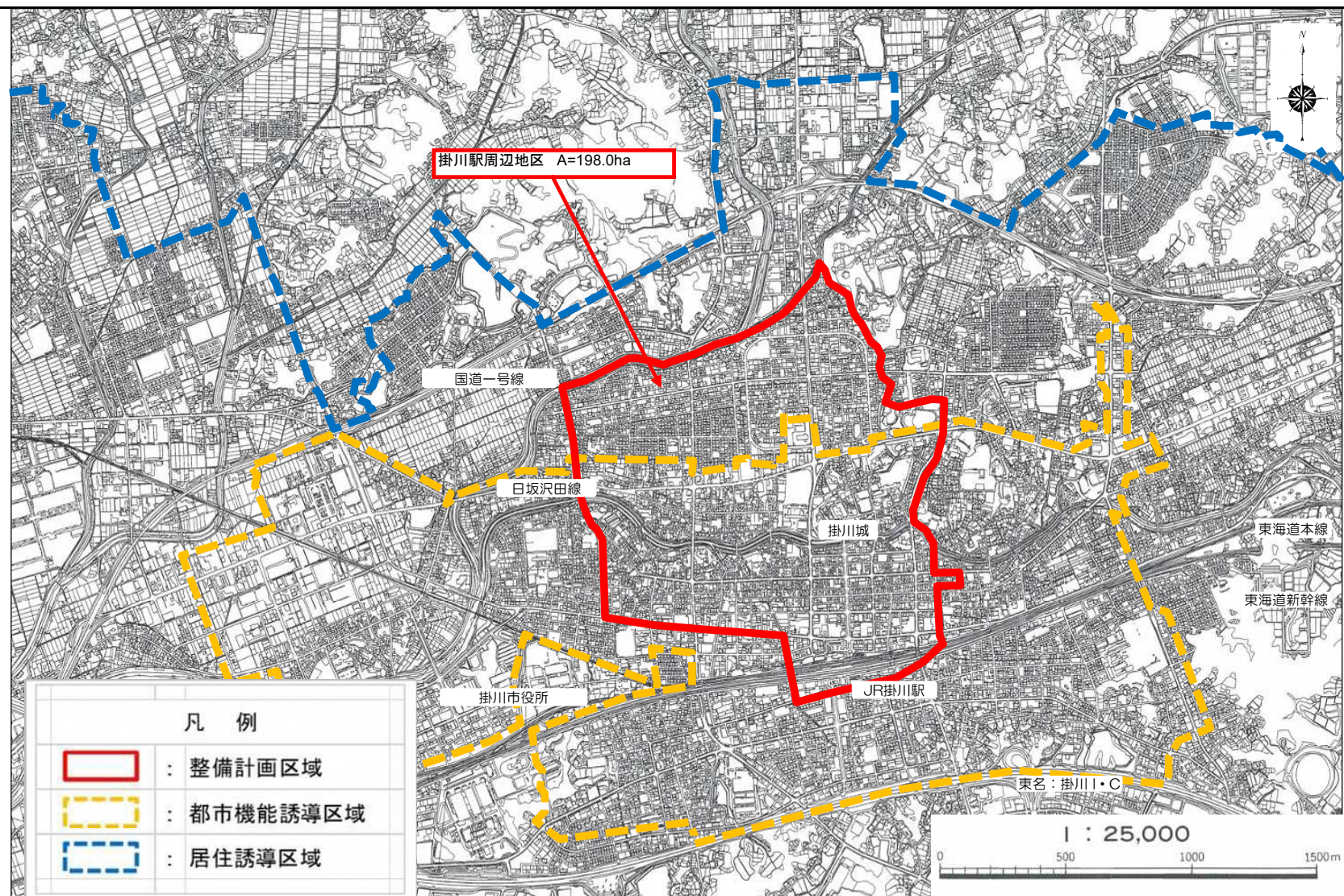


都市再生整備計画の添付書類等

交付対象事業別概要

かけがえき しゅうへん ちく しずおかけん かけがわし
掛川駅周辺地区（静岡県掛川市）

掛川駅周辺地区(静岡県掛川市) 現況図



交付限度額算定表(その1)

掛川駅周辺地区（静岡県掛川市）(2)-③

各事業の交付要綱に掲げる式による交付限度額の合計(X)	76.3 百万円	規則第16条第1項に基づく交付限度額(Y)	115,453.0 百万円	X≦Yゆえ、本計画における交付限度額	76.3 百万円
-----------------------------	----------	-----------------------	---------------	--------------------	----------

規則第16条第1項に基づく限度額算定

Au	891,000 m ²
----	------------------------

公共施設の上限整備水準

区域面積(m ²)	1,980,000
当該区域の特性に応じて国土交通大臣が定める割合	区域の面積が10ha未満の地区 0.50 ○ 最近の国勢調査の結果による人口集中地区内 0.45 その他の地域 0.40

Cl	560,100 円/m ²
----	--------------------------

単位面積あたりの標準的な用地費

標準地点数	3
公示価格の平均値(円/m ²)	84,900

単位面積あたりの標準的な補償費

当該区域内の戸数密度(戸/m ²)	0.003
標準補償費(円/戸)	44,000,000

Cf	23,000 円/m ²
----	-------------------------

控除額	0 百万円
-----	-------

まちづくり交付金とは別に国庫補助事業等により整備する施設

施設名(事業名)	面積(m ²)	国庫補助事業費等(百万円)
合計	0	0

Ap	495,000 m ²
----	------------------------

公共施設の現況整備水準

○ 整備水準が明らかになっている類似市街地等からの推定	
推定現況整備水準(小数第2位まで)	0.25
推定公共施設面積(m ²)	495,000

個別公共施設の積み上げ	
-------------	--

	面積(m ²)	割合
道路	-	-
公園	-	-
広場	-	-
緑地	-	-
公共施設合計	0	0

Cnを考慮しない場合の交付限度額(Y1)	115,453 百万円
----------------------	-------------

ΣCn	0 円
-----	-----

下水道	0 円
-----	-----

区域面積(m ²)	1,980,000
うち現況の供用済み区域面積(m ²)	
標準整備費(円/m ²)	3,600

地域交流センター等の公益施設(建築物)	0 円
---------------------	-----

上限床面積(m ²)	9,400
標準整備費(円/m ²)	464,900

調整池	0 円
-----	-----

調整池の容積(m ³)	
標準整備費(円/m ³)	140,000

河川	0 円
----	-----

河川整備延長(m)	
標準整備費(円/m)	3,700,000

住宅施設	0 円
------	-----

建設予定戸数(戸)	超高層 一般 合計	0
-----------	-----------------	---

標準整備費(円/戸)	超高層 一般	
	北海道特別地区	41,310,000 33,500,000
	北海道一般地区	38,190,000 30,990,000
	特別地区	49,120,000 35,690,000
	大都市地区	37,170,000 30,180,000
	多雪寒冷地区	41,510,000 32,370,000
	奄美地区	39,520,000 35,640,000
	沖縄地区	30,280,000 30,280,000
	一般地区	33,700,000 28,640,000

市街地再開発事業による施設建築物	0 円
------------------	-----

施設建築物の延べ面積(m ²)	
標準共同施設整備費(円/m ²)	132,000

電線共同溝等	0 円
--------	-----

電線共同溝等延長(m)	
標準整備費(円/m)	680,000

人工地盤	0 円
------	-----

人工地盤の延べ面積(m ²)	
標準整備費(円/m ²)	5,300,000

協議して額を定める大規模構造物等	0 円
------------------	-----

大規模構造物等	協議状況	整備費(円)

Cnを考慮した場合の交付限度額(Y2)	115,453 百万円
---------------------	-------------

各事業の交付要綱に掲げる式による交付限度額(活用する交付金の欄のみご記載ください。)

<都市構造再編集支援事業>

交付限度額(X1)	76.3 百万円
-----------	----------

<都市再生整備計画事業>

交付限度額(X2)	百万円
-----------	-----

<まちなかウォークアブル推進事業>

交付限度額(X3)	百万円
-----------	-----

交付限度額算定表(その2)(都市構造再編集集中支援事業)

様式(2)-④-1

【当初から都市構造再編集集中支援事業を実施する地区の場合】

※本シートについて、各自治体が交付限度額を算出する上での参考として添付しているものです。事業毎に状況が異なりますので、各自治体の責任において適切に交付限度額を算出するようお願いいたします。

交付要綱に掲げる式による限度額算定(詳細)

○ 交付対象事業費

※水色のセルに事業費等必要事項を入力して下さい。(事業費の単位:百万円)

<都市機能誘導区域内>

交付対象事業費	基幹事業合計(A)	147.000
	提案事業合計(B)	3.840
	合計(A+B)	150.840

(事業費)

(事業費)

(事業費)

以下の2つの条件それぞれについて、該当する場合は○を入力。

都市機能誘導区域面積割合が50%以上の場合	
提案事業枠2割拡充の適用	

※都市機能誘導区域面積割合:都市機能誘導区域の面積の市街化区域等(市街化区域又は非線引き用途地域)の面積に占める割合。

<都市機能誘導区域外>

交付対象事業費	基幹事業合計(C)	0.000
	提案事業合計(D)	2.160
	合計(C+D)	2.160

(事業費)

(事業費)

(事業費)

$(10/10 \times (A+B)) + (9/10 \times (C+D))$ (α1)	
※都市機能誘導区域面積割合が50%以上の場合: $(9/10 \times (A+B)) + (9/10 \times (C+D))$	152.784 ①
$(10/9 \times (A+C))$ (α2)	
※提案事業2割拡充を適用する場合: $(10/8 \times (A+C))$	163.333 ②
交付限度額(①、②の小さい方×1/2)	76.392 ③(国費)

○ 交付限度額、国費率

交付対象事業費(A+B+C+D)	153.0
------------------	-------

(事業費)

交付要綱に基づく交付限度額 (③を1万円の位を切り捨て)	76.3 ④(国費)
国費率	0.499 ⑤(国費率)

年次計画(都市構造再編集集中支援事業)

様式(2)-⑤-1

(事業費:百万円)

基幹事業										
事業	事業箇所名		事業主体	交付対象 事業費	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	
	細項目									
道路										
公園										
古都保存・緑地保全等事業										
河川										
下水道										
駐車場有効利用システム										
地域生活基盤施設										
高質空間形成施設		点字ブロック化	掛川市	42	0	0	11	15	16	
高質空間形成施設		掛川駅広場バリアフリー化	掛川市	55	0	0	0	5	50	
高質空間形成施設		ほのぼのバス(段差解消機)整備	掛川市	50	0	0	0	0	50	
高次都市施設	地域交流センター									
	観光交流センター									
	まちおこしセンター									
	子育て世代活動支援センター									
	複合交通センター									
誘導施設	医療施設									
	社会福祉施設									
	教育文化施設									
	子育て支援施設									
既存建造物活用事業										
土地区画整理事業										
市街地再開発事業										
住宅街区整備事業										
バリアフリー環境整備促進事業										
優良建築物等整備事業										
住宅市街地総合整備事業										
街なみ環境整備事業										
住宅地区改良事業等										
都心共同住宅供給事業										
公営住宅等整備										
都市再生住宅等整備										
防災街区整備事業										
計				147	0	0	11	20	116	
提案事業										
事業	事業箇所名		事業主体	交付対象 事業費	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	
	細項目									
地域創造 支援事業										
事業活用 調査		事業効果分析調査	掛川市	6					6	
まちづくり活動 推進事業										
計				6	0	0	0	0	6	
合計				153	0	0	11	20	122	
累計進捗率（％）					0.0%	0.0%	7.2%	20.3%	100.0%	

(参考)都市構造再編集集中支援事業関連事業									
	事業	事業箇所名	事業主体	交付対象 事業費	令和 年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度
合計				0	0	0	0	0	0
累計進捗率 (%)					#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

(参考)関連事業									
	事業	事業箇所名	事業主体	交付対象 事業費	令和6年度	令和7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和10年度
合計				0	0	0	0	0	0
累計進捗率 (%)					#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

事業活用調査・まちづくり活動推進事業・地域創造支援事業

(単位:百万円)

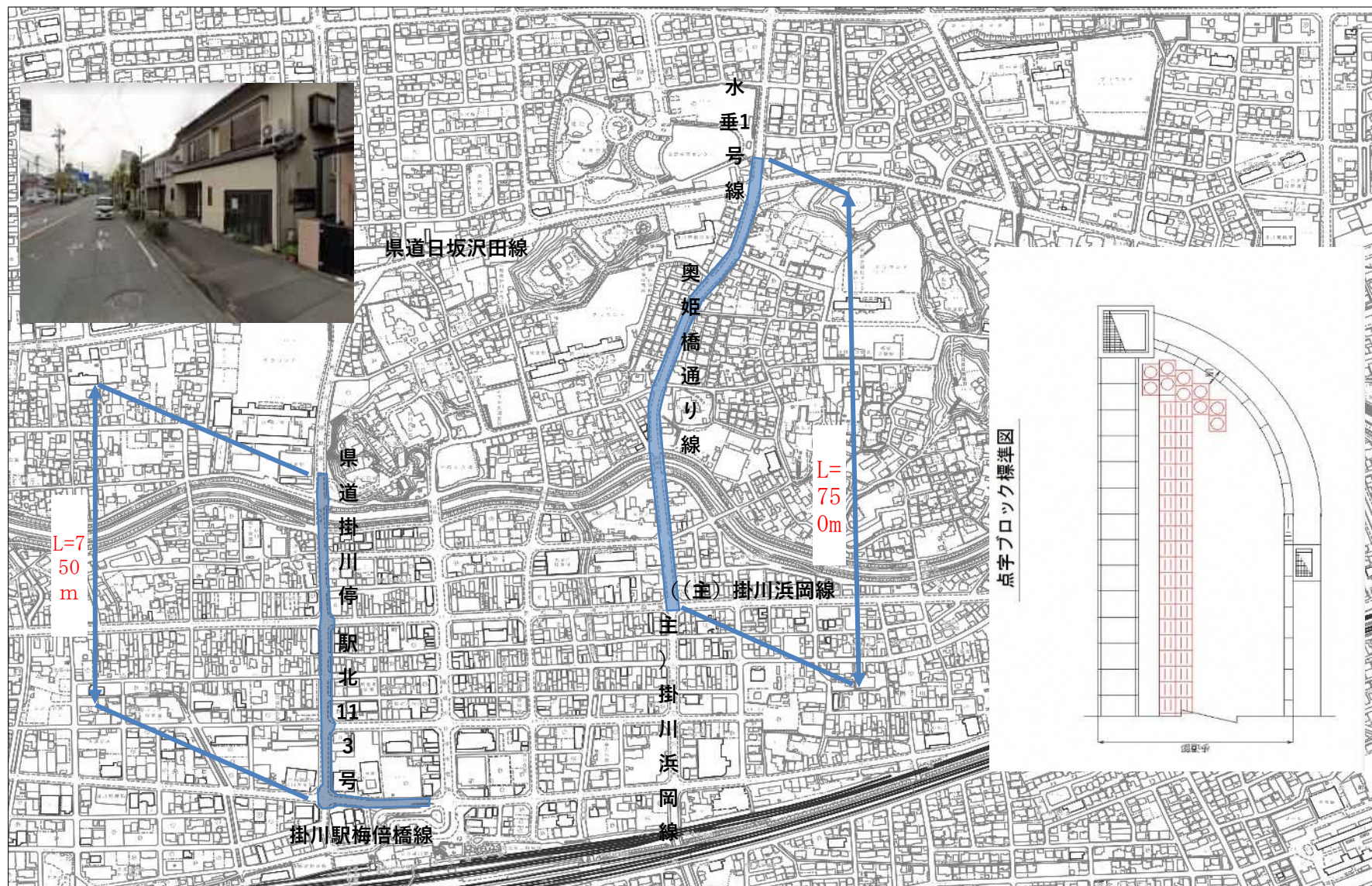
[illegible]

高質空間形成施設

単位:百万円

交付対象施設	施設名	事業主体	概要 (箇所数、規模等)	交付期間内 事業費	交付期間内事業費内訳			備考
					設計費	用地費	施設整備費	
緑化施設等(植栽・緑化施設、せせらぎ・カスケード、カラー舗装・石畳、照明施設、給電・給排水施設、ストリートファニチャー・モニュメント、土塁、堀跡等)								
電線類地下埋設施設								
電柱電線類移設								
地域冷暖房施設						—	—	
歩行支援施設、障害者誘導施設等	・点字ブロック化	掛川市	L=1,500m	42	11	0	31	
歩行支援施設、障害者誘導施設等	・駅前広場バリアフリー化	掛川市	A=7,000㎡	55	5	0	50	
歩行支援施設、障害者誘導施設等	・ほのぼのパス (段差解消機)整備	掛川市	1基	50	0	0	50	
合計	—	—	—	147	16	0	131	

点字ブロック化



駅前広場バリアフリー化



スロープ設置箇所



段差解消箇所

ほのぼのパス(段差解消機)整備



段差(階段)を北から南に望む



施行予定箇所



段差(階段)を南から北に望む

